

ふじみさらダボール子育て情報

「発達と育ち」

令和7年7月2日号

板橋富士見幼稚園



今までできたことができなくなる

日々わが子と向き合っていると、意外と成長や変化に気づきにくいものです。幼稚園生活は家庭と異なり、毎日ある意味で一定のプログラムリズムで保育が展開されていきます。その中で教師は、今までとちょっと違った行為や、言動に気付くことができます。（教師は日々子どもの変化を見続ける職業上、常に子どもの内的変化にも気づけるようトレーニングしているためです。）

こうした日々の中で、今まで元気に登園していた子どもが急に登園を渋ったり、泣いて抵抗したりといった、子どもの変化を受け止めるときがあります。「昨日まであんなに楽しく登園していたのに…」と、できていたことが急にできなくなることで、不安に思われる保護者の方もいるかもしれません。しかし、こうした状況に出会うと「随分成長しましたね」と、教師同士で認め合うことも実はよくあります。このような姿は、今まで思いのままに行動していた子が、家と園の違いや周囲の様子に気付いたり、家族と一緒に暮らしていることを理解したりできるようになった「成長」を意味する場合があります。自分の置かれている居場所が家と異なることや、先生と母親では自分との関係が違うことなどに気付き、良いこと・悪いことなどの様々な価値感を学びはじめ、自立に大きく踏み出そうとしている段階に達した証拠でもあります。自分にとって、“今は何が必要なのか”を見極める「知」が育っているのです。もしも今までの行動と何か変化が見られたときは、「知」が育ちつつあることを喜び合いたいものです。

【アズの収穫祭】

今年はアズの実が不作でしたが、刻んで冷凍しておいた実でジャムが作れる量になり、収穫祭を行いました。収穫祭2日目、煮込んでトロトロになったアズジャムをみんなで味見すると「すごく酸っぱい！！」と驚きの顔に。「どうしたらおいしいジャムになるかな」「お砂糖を入れよう」「どのくらい入れる？」とみんなで考えて、再びお砂糖を入れて煮込むことになりました。3日目、ついに出来上がったアズジャムをクラッカーに乗せて味わうと、「ちょっと酸っぱいけど甘くておいしい！」と何度もおかわりする姿がありました。みんなで実りの喜びや感動を味わいました。

